

## 特集



## 摂食障害について



## 1. 摂食障害とは

摂食障害には、いわゆる『拒食症』と言われる神経性無食欲症と、『過食症』と言われる神経性大食症があります。患者さんは思春期・青年期の女性が圧倒的多数ですが、最近は、低年齢化や男性例もみられるようになってきています。典型的には、拒食症は、食べることや体重が増えることへの強い恐怖心があります。ボディーイメージの障害や肥満恐怖と呼ばれるものです。このため、自ら厳しい食事規正をしたり、過度の運動をしたりします。こうして、体重は標準体重の80%以下に減少し無月経となります。過食症は、いらいらして短時間にむちゃ食い行為をし、その後、吐き出すことを繰り返します。

## 2. 摂食障害の原因

ダイエットを続けるうちに発症することがよくあります。しかし、ダイエットは原因ではなく、きっかけに過ぎません。社会的要因、心理的要因、身体的要因が複雑に絡み合って発症すると考えられています。たとえば、社会的要因としては、メディアによる、やせを美化する風潮。心理的要因としては、完全主義、強迫的な正確、自立への葛藤、低い自己評価などです。

## 3. 摂食障害の治療

うつ病や統合失調症とは違い、摂食障害そのものに効く薬が存在しません。このため、軽症例には、物の見方や考え方のゆがみを変えていく「認知療法」を行います。重症例には栄養管理をしながら「行動制限療法」というものを行います。行動制限療法とは、活動を抑えるように行動をあらかじめ制限し、目標体重を設けて、達成したらご褒美として制限していた行動を少しずつ解除していくものです。また、摂食障害の治療は、患者さん個人の問題だけでなく、母子関係、家庭の問題などが焦点になることもあって、家族への心理教育が必要なことがあります。

## 4. 医療機関について

軽症例は心療内科や精神科クリニックでも治療が可能ですが、対応できる精神科医療機関は少ないのが現状です。さらに、低体重、低栄養で身体管理が必要な重症例は、当科のような精神病床をもつ総合病院精神科でないと治療が困難です。

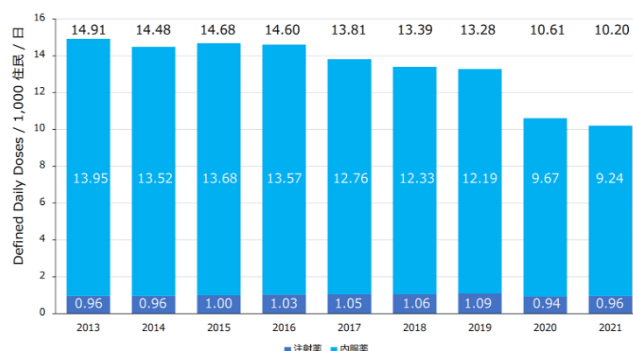
当科では、静岡県摂食障害支援拠点病院の浜松医大の協力病院として浜松医大精神科の治療プログラムを用いて多職種によるチーム診療に当たっています。地域で摂食障害が疑われ、対応にお困りの患者さんがおられましたら、当科にご相談ください。よろしくお願いします。

【 担当 : 精神科 大城 将也 】

# 抗菌薬の適切使用に向けて

日本における抗微生物薬使用量について、90%以上が経口抗菌薬の使用であるとの報告があります。なかでも第三世代セファロスポリン系抗菌薬、フルオロキノロン系抗菌薬、マクロライド系抗菌薬の使用が多い現状となっています。抗微生物薬の適正使用において、外来診療での抗微生物薬の必要な状況と必要ではない状況の判別は重要な課題です。

剤形別抗菌薬使用量 (2013~2021)



抗微生物薬使用の適応となる病態は、原則として抗微生物薬の投与が標準治療として確立されている感染症と診断されている、または強く疑われている病態です。その適応以外での抗微生物薬使用は最小限に止めるべきであり、また細菌感染症であっても、抗菌薬を使用しなくても自然軽快する感染症も存在するため、抗菌薬の適応病態を把握しておく必要があります。

患者さん側においても、適切に処方された抗菌薬については、症状が改善したからといって途中でやめるのではなく、指示通り最後まで服用すべきであること、また抗菌薬の服用中止の指示で抗菌薬が余る状況になった際は、それらの抗菌薬は適切に廃棄すべきであり、保存しておいて発熱などの際に患者さんが自らの判断で服用することは、「不必要使用~抗微生物薬が必要ない病態において抗微生物薬が使用されている状態」または「不適切使用~抗微生物薬が投与されるべき病態であるが選択、使用量、使用期間が標準的治療から逸脱した状態」のいずれかになる可能性があり、それは感染症の診断を困難にし、安全性の側面（副作用、必要量以上の投与など）からも問題となるため、十分な指導が必要になります。

そして外来診療においても、外来診療が困難となる場合を想定して、その後の培養検査の感度を損なうことのないよう抗菌薬投与前に適切な培養検査（複数セットの血液培養採取、喀痰や尿培養）を実施することが望ましいと考えます。

抗菌薬の投与において悩まれる際は、当院 AST（Antimicrobial Stewardship Team）もお力になれたらと思いますので、お気軽にご連絡ください。

【 担当：薬剤科兼感染管理対策室 日下 豊史 】

## 診療実績

### ○受託検査実績

項目	11月	12月
CT	37 件	24 件
MRI	43 件	34 件
超音波検査	12 件	16 件
その他検査	11 件	12 件

### ○診療実績

項目	11月	12月
紹介患者数	276 人	287 人
逆紹介患者数	217 人	203 人
1日当り 入院患者数	178.2 人	170.6 人
1日当り 外来患者数	453.4 人	429.2 人
病床利用率	68.5 %	65.6 %
救急搬送件数	95 件	115 件

### 【 発行 】

菊川市立総合病院 地域医療支援課 〒439-0022 静岡県菊川市東横地 1632

TEL : 0537-35-2344 Eメール : renkei@kikugawa-hosp.jp

FAX : 0537-35-2843 ホームページ : <http://www.kikugawa-hosp.jp>



©菊川市